

褥瘡予防研修

褥瘡とは



北出 貴則 先生

皮膚・軟部組織（骨などの硬組織を除く体組織、各種臓器）

- 皮膚は全身を覆う丈夫な被膜
- 皮膚は、表皮、真皮、皮下組織から成る
- 成人では、 $1.6 \sim 1.8\text{m}^2$ の面積と $3 \sim 5\text{kg}$ の重量を有す
身体の中で最大の器官（臓器） ※体重の約6.3～6.9%
皮下組織まで加えると約9kgとなり、体重の14%
- 皮膚は、侵害刺激からの保護、体温調節、分泌排泄、免疫、合成（ビタミンD）、皮膚呼吸、経皮吸収、感覚受容の7つの機能を有している

参考：乾 敏郎監修，電子情報通信学編：現代電子情報通信選書，知識の森，感覚・知覚・認知の基礎，P40～41，株式会社オーム社
参考：坂井建雄，岡田隆夫「システム看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」医学書院2014年

©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡とは

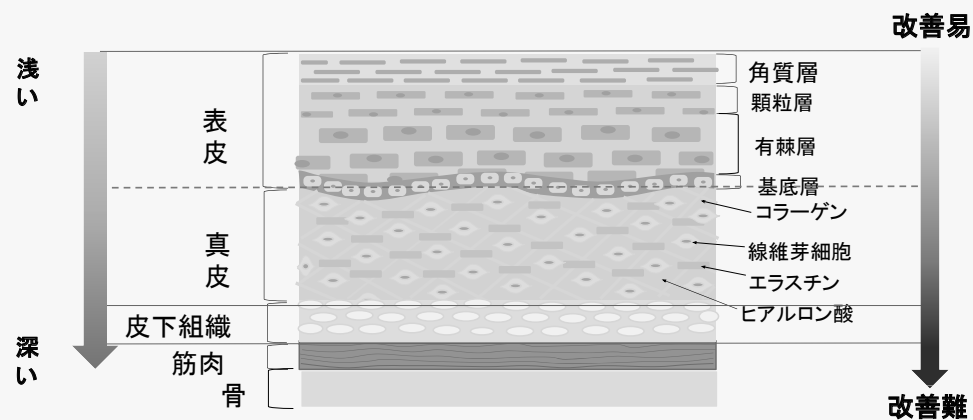
- 圧迫や圧迫とずれが組み合わさった結果、骨突出部の皮膚や皮下組織に局限して生じた損傷である
- 褥瘡は傷である。傷には痛みが伴い、感染リスクも伴う

※圧迫、摩擦、ずれ⇒外力

参考：EPUAP（ヨーロッパ褥瘡諮問委員会）＆NAUAP（米国褥瘡諮問委員会）著者，宮地良樹，真田弘美監訳：
「褥瘡の予防と治療」"クイックリファレンスガイド，図解" 発行.2010

©2023 MEDLEY, INC.

皮膚の構造と褥瘡



©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡予防研修

褥瘡のできやすい人・好発部位



北出 貴則 先生

褥瘡の管理目標

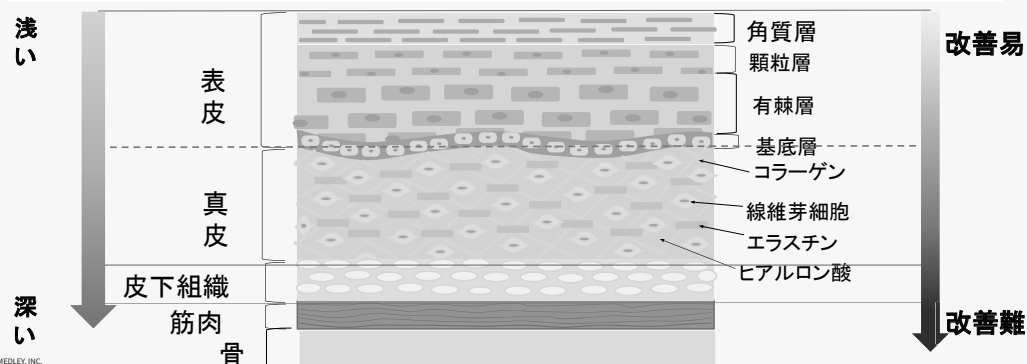
- 皮下組織を超えた深さの褥瘡と真皮までの褥瘡では治癒過程が異なる
- 平均治癒日数は、真皮までの褥瘡は24.8日、皮下組織を超える褥瘡は223.5日という報告がある
- 皮膚と比べて、筋組織は圧迫による虚血に脆弱
→長時間の圧迫により生じた褥瘡には、筋組織の虚血・壊死のある可能性が高い

参考：須釜 淳子,他：高齢者・障害者のための寝具の周辺機能，バイオメカニズム学会誌，Vol. 37，No.3（2013）

©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡の管理目標

褥瘡の発生予防または発生した場合は、真皮までの褥瘡に留めることができるか？



©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡ができやすい人とは

- 寝たきりや車いす生活の患者は、褥瘡発生のリスクがあるとみなす
- 歩行困難又は不能な者は褥瘡発生リスクがあるということ

参考：宮地良樹，真田弘美監訳：褥瘡の予防と治療，クイックリファレンスガイド日本語版，P10，メンリッケヘルスケア株式会社発行，2015



©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡ができやすい人とは

褥瘡になりやすい疾患

- うっ血性心不全
- 糖尿病
- 慢性閉塞性肺疾患
- アルツハイマー型認知症
- 骨粗しょう症
- パーキンソン病
- 肺炎
- 骨盤骨折
- 悪性腫瘍
- 関節リウマチ
- 深部静脈血栓症
- 末梢性血管疾患
- 脳血管疾患
- 尿路感染症

参考：褥瘡ガイドブック 第2版（照林社、2015年）P149，褥瘡予防・管理ガイドライン第4版

©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡好発部位

また、褥瘡以外に、スキンテアによる皮膚障がいも増加している

※スキンテアとは、年齢などにより脆弱（ぜいじゃく）になった皮膚において、軽微な外力（摩擦やずれ）が加わることで生ずる裂傷

©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡好発部位

施設別床ずれの保有部位

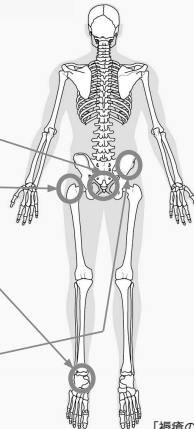
一般病院

- 1位：仙骨部（49.6%）
- 2位：踵骨部（15.2%）
- 3位：大転子部（9.4%）

介護老人福祉施設

- 1位：仙骨部（49.2%）
- 2位：踵骨部（9.8%）
- 3位：腸骨部（8.5%）

背面



- 仙骨
- 尾骨
- 大転子
- 踵
- 棘突起
- 肩甲骨
- 肘
- 腸骨
- 腓骨
- 下腿外側
- 外果、後頭隆起
- 耳
- 足（間）
- 膝内側
- 等々...

参考：EPUAP（ヨーロッパ褥瘡諮問委員会）＆NAUAP（米国褥瘡諮問委員会）著者、宮地良樹、真田弘美監訳：「褥瘡の予防と治療」“ウィックリファレンスガイド、(株)アーク 発行、2010.9

出典：日本褥瘡学会編：褥瘡予防・管理ガイドライン、2009、松林社、3頁

©2023 MEDLEY, INC.

褥瘡予防研修

褥瘡の原因



北出 貴則 先生

褥瘡の原因

医療専門職の見立てが必要	身体的要因	環境的要因	必ずしも必要ではないが
	● 動けない（寝返り,起居） ● 拘縮がある ● 筋緊張亢進、低下 ● 高度に痩せている ● 骨突出がある ● 皮膚のしわ ● 浮腫み ● 皮膚が脆弱 ● 発汗、尿便失禁 ● 摂食嚥下障害 ● 感覚障害 ● 認知機能	● 外力、衣服、温度や湿度 ● 体位変換や姿勢修正 ● ベッド操作や寝位置 ● ベッド上座位 ● ポジショニング方法 ● 移乗方法 ● 車いす等での座位保持 ● 姿勢保持活動や時間 ● 服薬の影響 ● 栄養管理 ● リハビリ ● 介護状況、経済状況など	

参考：田中マキ子、北出貴則、永吉恭子著：「トータルケアをめざす褥瘡予防のためのポジショニング」、照林社、2018年10月
宮地良樹、真田弘美監訳：「褥瘡の予防と治療、クイックリファレンスガイド日本語版」、P10、メンリッケヘルスケア株式会社発行、2015。

褥瘡予防研修

褥瘡ケアに必要なアセスメント・観察



北出 貴則 先生

外力（圧迫、摩擦、ずれ）について



“外力はあらゆる場面で発生する”

外力と共に、環境要因が及ぼす影響について考える必要がある

体圧（圧力）について

- 褥瘡予防では、皮膚や軟部組織に加わる外力を如何に分散、軽減するかが重要である
- 圧力は、自分の体重（身体の重み）で発生しているという認識を持つ必要がある
- 圧力＝身体の重み。重みが圧力を発生させている

体圧（圧力）について

- 人間の毛細血管内圧は通常32mmHgで、これ以上の圧力が加わると毛細血管が閉塞状態になり皮膚組織に血液が通わなくなると言われている
- 32mmHgは計測機器があれば測定できるが、計測器が無い場合は、用手で確認する事や皮膚観察が重要となる
※視診、触診。発赤や水泡、皮下血腫の確認

褥瘡予防研修

外力を考慮した介助方法



北出 貴則 先生

褥瘡ケアに必要なアセスメント・観察

- 全身状態に悪化がみられた場合は、皮膚アセスメントの頻度を増やす
- 特に仙骨、尾骨、大転子、踵などの骨突出部位を覆っている皮膚に着目して、全身のアセスメントをする
- 患者の皮膚状態および全身の安楽さを定期的にあセスメントをする
- 特定の体位を選択する時は、実際に圧力が軽減又は分散されているかアセスメントをすることが重要である
※外力の評価は、測定機器や触診、視診で行う

外力を考慮した介助方法

- 皮膚が圧力およびせん断力を受けないようにする
- 移動補助用具（スライディングシートやグローブなど）を用いて摩擦やずれを軽減する
- 体位変換時には患者を引きずらずに持ち上げる（あればリフト等を活用）
- 摩擦やずれを減らすために、綿織物や綿混紡布ではなく絹様の布地の使用を検討する
- 患者が耐えうる速さで動かす。患者の動きに合わせてゆっくり動かす

体位変換・ポジショニングとは

体位変換

患者の体位変換は、身体の脆弱な部位への圧迫持続時間および圧力を減少させるため、および快適性・衛生状態・尊厳・機能的能力を保つために行われる。

出典: 宮地良樹, 真田弘美監訳: 褥瘡の予防 & 治療: クイックリファレンスガイド日本語版 (2014) メンリッケヘルスケア株式会社, 2015

ポジショニング

運動機能障害を有する者に、クッションなどを活用して身体各部の相対的な位置関係を設定し、目的に適した姿勢（体位）を安全で快適に保持することをいう。

出典: 日本褥瘡学会 HP用語集 (ポジショニング) <https://www.jspu.org/medical/glossary/> (最終アクセス日: 2023/12/11)

© 2023 MEDLEY, INC.

【 メモ 】

【 メモ 】

【 メモ 】

ヒヤリハット研修 現場で起こる事故とは？



中込 慶太 先生

現場で起こる事故とは

事故 = 人が動く限り必ず起きる

事故とは

普段とは違った悪い出来事、良くないことが起こること

24時間・365日対応



生活している限り必然

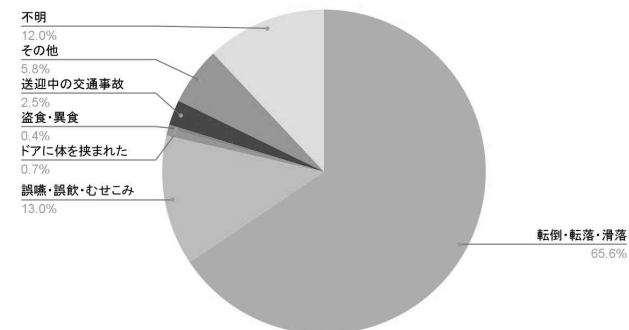
目次

- 介護の現場で起こる事故について

よく起こる事故の分類

事故 = 人が動く限り必ず起きる

厚生労働省報告276事例 事故状況分類



消費者庁への報告：重大事例として概ね30日以内の入院を伴うものとして取り扱い
出典：公益財団法人 介護労働安定センター 「介護サービスの利用に係る 事故の防止に関する調査研究事業」 報告書
http://www.kaiigo-center.or.jp/report/h29_roujinken_01_20171024.html 2022.10

よく起こる事故の分類

介護現場で一番多い事故とは

転倒

転落

移乗、排泄、入浴など
あらゆる場面において転倒・転落のリスクがある

原因は多岐

職員は常に転倒の危険性を考え行動していくことが求められる

よく起こる事故の分類

介護現場で一番多い事故とは

その他

- あらゆる場面で発生

- 事業形態で変化

- 交通事故
- 備品系

- 人身事故より
物損事故が多い

よく起こる事故の分類

介護現場で一番多い事故とは

誤嚥

誤飲

転倒・転落と比較すると発生頻度は少ない
対策としての優先順位は高い

死亡の原因と直結

食事介助などで事故発生

すぐに対応しないと重大事故に繋がりやすい

まとめ

- 介護の現場でよく起きる事故は、転倒・転落、誤嚥・誤飲が多い
- 日々の業務では、そのような場面に特に気をつけて取り組む必要がある

ヒヤリハット研修

ヒヤリハットとは？



中込 慶太 先生

ヒヤリハット インシデントとは

ヒヤリハットとは

重大事故に危うく繋がるような

ひやっ！、はっ！ というような場面を指す言葉



ヒヤリハットとインシデントは類似用語

違いとは

ひやっ！、はっ！	した	⇒ ヒヤリハット
ひやっ！、はっ！	しない	⇒ インシデント

目次

- ヒヤリハットとはどのような状態をいうのか

アクシデントとは

アクシデントとは

事故に相当する用語



利用者の状態を変えてしまったかどうか
用語の意味を理解するうえで重要

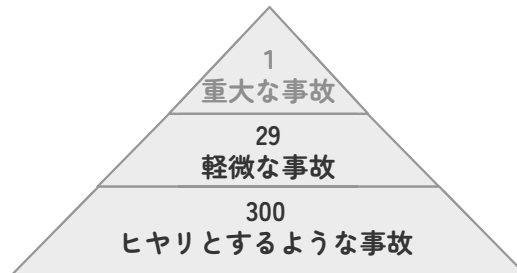
違いとは

ヒヤリハット、インシデント	⇒	変えていない
アクシデント	⇒	変えた

ハインリッヒの法則

ハインリッヒの法則

- 1つの重大事故の背後には 29 の軽微な事故
- さらに 300 のヒヤリがあるという考え方
- 突然重大事故が起きるわけではなく軽微な事故・ヒヤリの積み重ね
- その積み重ねで、いつしか起きるという法則



まとめ

- もしアクシデントが起きたら、迅速な対応が大切
- 人が動く限り、必ずヒヤリハット場面に遭遇する
- 自分がひやっ、はっとしたことはチーム内で情報を共有し、改善につなげることが重要

目次

- ヒヤリハットの事例を想定しておくことがなぜ大切なのか

ヒヤリハット研修 ヒヤリハット事例を 想定しておくことの大切さ



中込 慶太 先生

ヒヤリハットを意識する意味

ヒヤリハットとは

重大事故に危うく繋がるような
ひやっ！、はっ！というような場面を指す言葉

現場の職員のイメージ

- ヒヤリハットは良くない？
- 悪いこと？

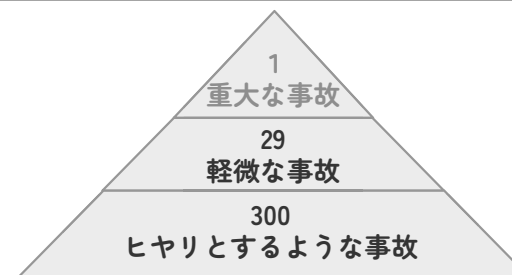


ヒヤリハットの事象を戦略的に活用と分析し
日々のサービスに有効に活用することができる

ヒヤリハットの大切さ

ハインリッヒの法則

- 1つの重大事故の背後には29の軽微な事故
- さらに300のヒヤリがあるという考え方
- 突然重大事故が起きるわけではなく軽微な事故・ヒヤリの積み重ね
- その積み重ねで、いつしか起きるという法則



ヒヤリハットはなぜ起きるのか？

主に3つに分類できる

3分類

- 利用者本人の要因

ヒューマンエラー

- 職員の要因

ヒューマンエラー

- 環境、設備の要因

ヒヤリハットを想定する

ヒヤリとする感覚は個人差があり、主観的要素も強い

主観的事実

報告

客観的要素



報告をしっかりとしていけば、
事象が客観的に分析可能であり
結果的に大きな事故に繋がりにくい
ヒヤリハットも想定でき、
未然に防ぐことができる

- ヒヤリハット事例を、自分だけではなく、チーム内で共有してまとめ次のアクシデントにつながらないようにしておくことが重要

- ヒヤリハット事例の報告をすることがなぜ大切なのか

ヒヤリハット研修 報告の重要性



中込 慶太 先生

報告の重要性

ヒヤリハットとは

- 事故の一步手前
- 大きな事故を予防するために、日々報告が大切

- ヒヤリハット報告に関する法規制はない
- 企業・職員は自発的に取り組み、集めた事例から適切な対策をとることが必要

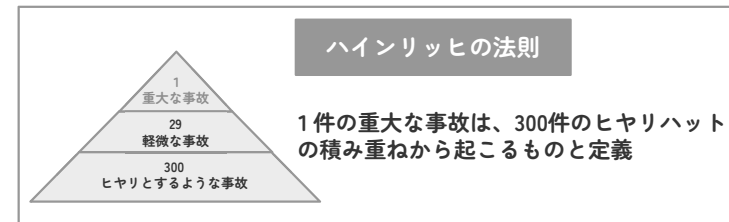
記録の目的

目的

- 古代ギリシアの医者ヒポクラテス

文献を正しく研究する能力もまた、医術の大切な部分である
書かれたものを理解して利用すれば、医療に際して大きな失敗を
しないですむと思われるからであると述べているように、
記録の目的や重要性が記載されている

ヒヤリハットを考える重要性



ヒヤリハットの回数を減らす

自然と重大・危険な事故の件数を減らすことに

報告書とは

報告書

- コミュニケーションのため
- 経過や必要な事項に関して要点をまとめるもの
- ヒヤリハットに遭遇した当事者が、その状況や原因、対策などを記載して共有するための文書
- 文書として残すことで口頭での報告よりも共有しやすく、ヒヤリハットの再発及び分析も行いやすくなるメリットがある

まとめ

- 大きな事故の前には、必ず小さな前兆があるもの
- 報告は後回しにせず、すぐにする
- その情報や記録を残して共有することが、改善への第一歩となる

ヒヤリハット研修 報告書の書き方



中込 慶太 先生

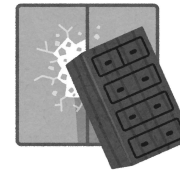
なぜ報告書を書くのか？

報告書の目的

同じ事故を繰り返さないようにするため



起きてしまった事故とどう向き合い、対処するか？



記録

ありのままの真実

報告

目次

- 報告書の目的、書き方について

令和３年度介護報酬改定に関する審議報告

国が定めた事故報告を行う基準

- 1 死亡に至った事故
- 2 医師の診断を受け投薬、処置等何らかの治療が必要となった事故

その他の事故報告については、各自治体の取り扱いによる

報告書の書き方

5 W 1 Hで情報を整理

客観的な事実に基づいた情報

直接的・間接的な原因を考察する

対策・改善策は具体的に提示

時系列に箇条書きで記入をする

専門用語はできるだけ避ける

発生後は速やかに報告書を作成

報告書の書き方 5 W 1 H

5 W 1 Hとは？

- When いつ
- Where どこで
- Who 誰が
- What 何を
- Why なぜ
- How どのように

報告書の書き方 5 W 1 H

5 W 1 Hとは？

- When いつ
- Where どこで
- Who 誰が
- What 何を
- Why なぜ
- How どのように

報告書の書き方 5 W 1 H

• 5 W 1 H

- 10月1日午前0時
- 浴室で
- Aさんが
- 浴室内を歩いていたら転びそうになる
- 浴室内が液体で滑りやすくなっていた
- 歩く前に流水でしっかり洗い流す

5W1Hとは？

- 10月1日午前0時
- 浴室で
- Aさんが
- 浴室を歩いていたら転びそうになる
- 浴室が液体で滑りやすくなっていた
- 歩く前に流水でしっかり洗い流す

まとめ

- 報告書の記入内容は施設の形態などによって異なる
- 報告書には、事実と結果の間の因果関係を記す（5W1H）
- 記録内容は、忘れないうちに、ありのままの事実を客観的に記す

ヒヤリハット研修

報告や想定をしなかった ことで起こるリスク

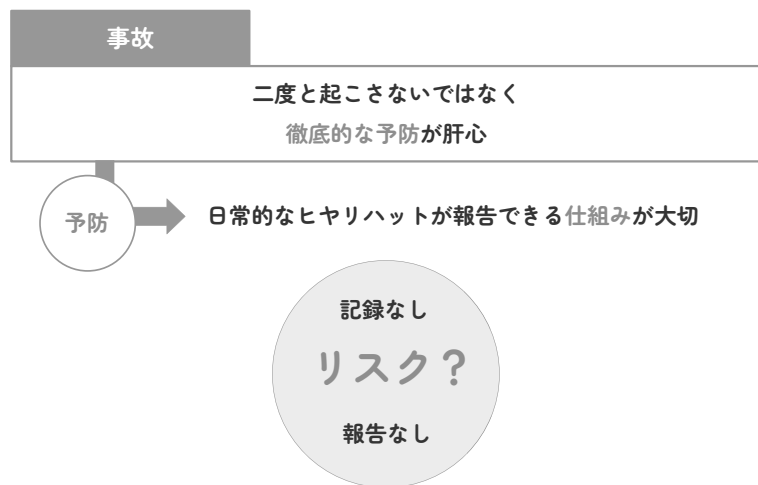


中込 慶太 先生

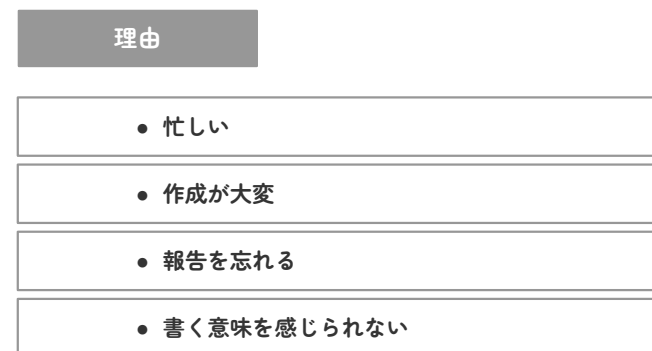
目次

- 報告や想定をしなかったことで起こるリスクについて

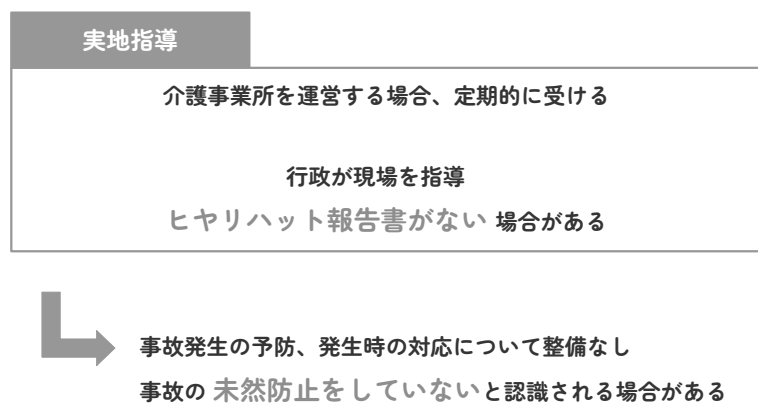
ヒヤリハットの捉え方



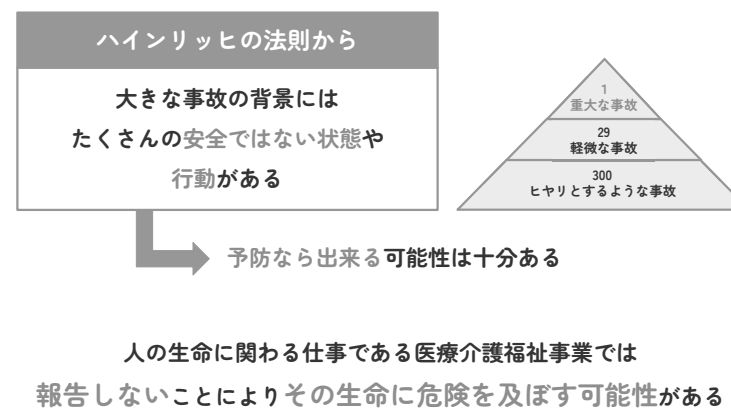
報告が定着化しないのはなぜ？



実地指導における指摘事項



報告しないリスク





- 報告や想定をしなかったリスクとは、大きな事故につながる可能性があること
- 私たちは、利用者の生命を守ることを想定して行動をするべき

【 メモ 】

【 メモ 】

【 メモ 】